

## 19 学校支援ボランティア活動の推進に関する調査研究

研究代表者 馬場 祐次郎（社会教育実践研究センター センター長）

### ①研究の趣旨，ねらい

地域の教育力を学校の教育活動に生かすための学校支援ボランティア活動の実態及び活動支援状況や人材養成状況等について調査研究し、学校と地域の連携によるボランティア活動の活発化に資する。

### ②研究成果の概要

学校支援ボランティア活動の現状と課題を明らかにするとともに、今後の学校支援ボランティア活動の効果的な展開方策や可能性を探るため、全国各地で展開されている学校支援ボランティア活動の先進的な取組（10か所）について調査研究委員会においてのヒアリング調査及び現地聞き取り調査を実施した。その結果の概要は次のとおりである。

- 学校支援ボランティア活動について、①学校支援ボランティア活動の意義・効果、②学校支援ボランティア活動の背景・必要性、③学校支援ボランティア活動の課題の3つの視点でまとめた。
- 学校支援ボランティア活動の先進的な取組についてヒアリング調査及び現地聞き取り調査を実施した10事例の結果について、ケーススタディとして、それぞれ①活動の背景・経過・目的、②活動の内容、③活動の成果と課題、④今後の方向性等の視点でまとめた。
- ヒアリング調査及び現地聞き取り調査の結果を踏まえ、学校支援ボランティア活動の効果的な展開方策について示した。
  - ・学校支援ボランティア活動が学校の教育目標や教育計画に適切に位置づけられること。
  - ・学校支援ボランティアが、一つの集団として、組織及び活動の目標を持つとともに、自立的な規範を持つこと。
  - ・ボランティア活動等の経験を積んだ地域住民がコーディネーターの役割を担えるような態勢づくりを行うこと。
- 学校支援ボランティア活動の可能性として、「学校支援ボランティア活動は『学びのサイクル』を活発にできること」「学校支援ボランティア活動が活発になれば、学びのネットワークとしての『学縁づくり』ができること」「学校支援ボランティア活動には『コーディネーターの設置』が欠かせないこと」等を提言している。

### ③中期目標との関連性

- 中期目標〔目標4〕社会教育分野での実践的な調査研究に関連するものである。特に、学校を地域の拠点として社会全体で支援する取組の推進に資するという視点から（1）社会教育の現場における課題の把握とその解決に関する調査研究の実施に関連する調査研究である。
- 社会教育実践研究センターの活動目標【目標2】社会教育事業を充実発展させるための新たな手法の開発や社会教育事業の検証・評価に関する調査研究を推進することに合致するものであり、特に今後の学校支援ボランティア活動の効果的な展開方策や可能性を見出すことにつながるものである。

### ④今後の研究予定

- 平成19年度調査研究の成果を踏まえるとともに、平成20年度に国が行う「学校支援地域本部事業」との関連に留意しながら、平成20年度に「学校支援ボランティア活動の推進方策に関する調査研究」を実施し、その結果を調査研究報告書にまとめる。

### ⑤キーワード

- （1）ボランティア活動                      （2）学校支援ボランティア活動
- （3）地域の教育力の再生               （4）コーディネーター

### ⑥本研究の研究報告書

- 学校支援ボランティア活動の推進に関する調査研究報告書

### ⑦関連する先行研究や参考となる研究等

- 「青少年の体験活動ボランティア活動のコーディネーター養成研修プログラムの開発」：社会教育実践研究センター 平成15年度
- 「学校における体験活動ボランティア活動のコーディネーター研修プログラムの開発に関する調査研究」  
：社会教育実践研究センター 平成16年度～平成17年度
- 「ボランティア活動に関する調査研究」  
：社会教育実践研究センター 平成18年度